

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0170501050, ライフアート, グループホーム福寿荘, 札幌市白石区北郷5条9丁目8-33, 令和2年8月15日, 令和2年11月17日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan...&JigyosyoCd=0170501050-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和2年11月4日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居される一人一人のこれまでの生き方や価値観を大切にしながら、認知症の各疾患(アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型)の特徴を踏まえた個別ケアを行っています。
・日々のケアの実践と毎月の社内研修を通して、認知症ケアの在り方について学びを深めていくことで、認知症の重症度や疾患の特徴の違いがあっても、それぞれの意向を尊重した生活支援にとりくんでいます。
・どんなにBPSDがあっても、本人の意向を中心にご家族、医療と適切に連携を図りながら、チームでの統一したケアの展開により、本来のその人らしさを取り戻す実践を重ねています。
・平成27年度北海道GH教会相互評価モデル事業に参加。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

厚別通りから少し奥まった閑静な住宅街に在る1ユニットの事業所で、隣接の系列事業所と共有の中庭で、利用者は花々や野菜の成長を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごしている。法人理念である「一人を大切に、支え合う心、安心して暮らせる社会づくり」の下、地域からは「福寿荘」として広く認知され、運営推進会議には地域の方々の協力があり、法人としても認知症高齢者支援の先駆者として啓発活動に尽力している。事業所内では、利用者一人ひとりを大切に、認知症の各疾患の特性を踏まえた個別ケアの実践により、その人を取り巻く環境整備にきめ細かく対応している。特に利用者の気持ちや思いを聞き取る姿勢は、尊厳ある落ち着いた生活に直結している。利用者の楽しみである食事は好みを反映し、圧力鍋での調理や個別に食器等を選択し、目にも美しく、出来る限り自分で食べられるよう工夫している。また、家族との絆を大切に共に支える為に「家族ノート」を活用したり、家族会も定期的に開催している。日常の健康管理の先にある看取りケアでは、系列事業所への転居も視野に入れ、本人、家族の望む終末を支援している。コロナ禍では、感染症予防対策の徹底を図りながら、利用者にとってごく普通の暮らしが継続できるよう本人本位に検討しており、日々質の高いサービスの実践に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation criteria and results for various service aspects like staff understanding, user safety, and health management.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をスタッフ間で共有し、ケアカンファレンスの時などは理念に沿ったケアになっているかなど意識して取り組むようにしている。またユニット会議の中でも理念の確認を行った。	法人理念やケア理念は、事業所内要所の掲示や職員個々の携帯により、全職員の共有を図っている。管理者は、会議等でサービスの基本姿勢や心掛けたい対応を示唆するなど、理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事に出来る限り参加するなどして交流をしている。地域にボランティアグループ(オレンジリング)をつくり、現在は中止しているが地域の方に対して認知症講座を開催したり、月1回地域食堂を開いたり地域との交流を行っている。	町内会とは良好な関係を築いており、地域の祭りやごみ拾い等の行事には、できる限り参加するようにしている。音楽ボランティアとのふれあいや、認知症啓発活動で地域貢献にも積極的に取り組んでいる。コロナ禍では交流の機会は自粛しているが、散歩時には挨拶し合うなど、自然体の交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議で地域の方々に、ホームでの取り組みやケアの実施を報告し、又、困ったことがあれば相談しに来ていただくことも可能な旨を話している。また、「高齢者110番の家」のステッカーを掲げ、地域での相談窓口の役割を担っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、利用者やホームの近況、サービスの実際、防災や研修などについても報告、話し合いを行っている。その中で参加者より出た意見を運営に反映している。	今年度は8月より書面報告により、意見や要望、評価を得、会議実施としている。例年は年6回地域や家族、行政などの出席により、事業所の取り組みや利用者の状況を報告し、メンバーそれぞれの立場の情報や意見を交換し、運営等に活かしている。議事録は全家族に送付し、会議内容を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告書の提出や調査・アンケートへの回答など適宜連携をとることができるよう取り組んでいる。また、市町村との直接的な連携は少ないが、包括支援センターや管理者連絡会などを通して、行政との情報交換を行っている。	行政とは、法人の事務担当を中心に随時連絡を取り合い、各種書類等の提出や介護認定更新等で連携している。管理者は、行政主催の会議等に参加し、行政発信の指導や情報を得て、より良い利用者支援に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。又、身体拘束はせず、センサーで対応している。社内/社外研修に参加し、身体拘束に関する理解、意識を高め、不適切ケアにならぬよう努力している。	マニュアルを整備し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。法人内に適正化委員会を設け、定期的な社内研修等で、拘束による弊害や不適切ケアに関する内容の理解を深めている。日中玄関は施錠せず、気になる言葉はその場で注意、また薬等の使用は随時主治医に確認するなど、日々の暮らしの中で、利用者が閉塞感や抑圧を感じることはないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・社外研修等で学ぶ機会をもち、虐待の防止に努めている。社外研修への参加及び、通達を確認しながら職員への周知を行っている。社内研修では、不適切ケアについて学ぶ機会があり、ケアのあり方について理解を深め、その際に自分たちの日頃のケアを振り返り、薬剤の使用も含めて不適切ケアがないかチェックをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持っている。個々の必要性に応じて、制度活用が出来るよう情報を提供したり、制度活用が円滑にできるよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談及び契約の際に行っている。また、職員全員が契約内容を理解している。日常的にも疑問や不安があれば、その都度理解や解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的開催している家族会の際に、運営に対する経過や方針を報告するとともに、ご家族からの意向や意見を頂き運営に反映している。また、玄関に意見ボックスを設置し、家族ノートも活用し、意見や要望を表明しやすいように努めている。	法人合同の家族会を開催し、意見等を運営に反映している。コロナ禍の現状では電話、オンラインで写真や映像を送るなど、きめ細かな報告と、対話を重ねている。また、時間制限がある面会だが、個人別の家族ノートにより、事業所側のお知らせと意見等を聞き取る方法を工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送り等で意見や提案を聞く機会を設けるようにしている。又、スタッフノートも活用している。	職員は、会議や業務の中で積極的に意見等を表出しており、管理者は、個人面談でも随時意見を聞くようにしている。業務やケアに関する職員ノートを作り、意見や提案、気づき等を引き出し、運営やサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度における課題の設定や、スタッフの状況に応じて、資格取得や学習の場を用意する等の個別対応をしている。社内研修以外にも、管理者とリーダーの勉強会なども行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの力量にあった外部研修を受けられるように調整している。また、それぞれの課題に合わせて社内研修を組み立て、学びの場を作っている。他ユニットへの助動もあり、様々なレベルの方への対応や認知症の疾患による特徴的なケアを実際に学ぶことも目的としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度の社内研修では、他事業所のグループホームの職員と一緒に勉強会を行っている。また、他のグループホームの職員等の見学なども受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭訪問やデイサービスの利用を経ての入居など、入居前の繋がりを作っている。入居後はホームでの生活に安心感が持てるよう個別対応でゆっくりと関わりながら、スタッフや他者との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っていること、不安なこと、要望などを伺うようにしており、入居後すぐは、こちらからご家族に本人の様子を電話連絡したり、随時情報交換をしながら、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって、どんな支援を必要としているのかを話し合い、他サービス利用も踏まえた対応をしている。入居時間の調整や当日の食事を共にしたりなど本人が安心できる様子を家族が理解できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や畑仕事など、本人が得意とする分野については持っている力を発揮できるような場を積極的に作り、暮らしを共にする中で、スタッフも学んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートを作成したり、電話での連絡、家族あての手紙などを通じて連携を取るようになっている。ご家族と一緒に外出する支援やLINEを活用し、動画・写真を送る事で入居者の様子を伝え、又、電話で話せるようにもしている。必要に応じて家族との面談を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の集まり、知人宅への訪問、家族の墓参り、自宅に行くなどが出来るよう支援している。また、疾患別ケアに取り組むことで症状が落ち着き、ご家族が親戚や知人とともに来訪し、再び関係継続がなされるようになってきている。	職員の認知症患者別の対応により、他者関係の再構築につながっている。普段会えない家族と一緒にの外出を促して、利用者は自宅帰宅や墓参り、外食等を楽しんでいる。コロナ禍では外出等の制限があり、昔話や家族が持参した写真を話題に本人の話を聞くなどして、大切な経験や親しい人達との関わりが途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者同士の間に入り、相手の思いを伝えたり、関係調整を行うよう努めている。また、以前からいる入居者が新しい入居者を支えられる関係づくりを支援している。さらに、疾患別の特徴も考量しながら関係構築の支援にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡により退去された場合には、家族に対するフォローなどを行うように努めている。入居されていた方が亡くなった後にも、ご家族がホームのみんなに会いに来てくれていることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が訴える力を持っている場合には、直接本人の意向を把握している。困難な場合であっても、日常の関わりから気持ちの汲み取りや観察を通して本人本位の検討を重ね、ご家族からも意見を頂きながらケアプランに反映させている。	日常の寄り添いから、利用者の気持ちや意向の聞き取りを行っている。分かりやすく簡単な言葉での聞き取りや、その時の反応などから本人の気持ちを察しており、本人に聴くことを丁寧に行い、家族情報も取り入れて、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などのアセスメントシートを活用しながら、本人・家族から情報を得ている。また、ご兄弟などの来訪の際には、幼少期の話なども含めて情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やスタッフ間でも話し合いながら、現状の把握に努めている。必要時にはアセスメントシートを活用し、より具体的な把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアの在り方について、本人と話したり、スタッフ間でカンファレンスを行い、現状に即したケアプランを作成するようにしている。各スタッフが本人の様子を自由に記載する「気づきノート」を活用し、ケアプランを作成した。	利用者の本音の聞き取りが日常的に行われ、記録の記載や職員共有の気づきノートにより、多様な視点で状態把握や課題に対する提案や取り組みにつなげている。職員、家族、医療関係者などの意見を盛り込み、3か月毎の定期や状態変化に応じ現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画欄に、気づきやケアプランに基づき実践したことを記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス・ショートステイ・グループホーム間で連携を取りながら、その時々生まれるニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加したりと本人のもつ心身の力に合わせて、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所で連携をとりつつ、他の病院を受診する場合は同行し、情報を提供するなどの支援をしている。また、かかりつけ医より専門の往診医を紹介してもらい、受診が難しい方でも安心して医療を受けられるようになっている。	協力医療機関の月2回の訪問診療を利用し、緊急時も適切な指示を得られている。看護職員がおり、日常の健康面を支え、必要時に歯科や皮膚科等の往診体制も整えている。外来受診結果なども含めて、家族と利用者の健康状況を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員と連携をとり、入居者の体調管理にあたっている。また、看護師不在時も必要に応じて電話で報告、指示を仰ぐ等している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必要に応じてスタッフが病院へ訪問したり、家族との連絡を取りながら、病院との情報交換に努め、できるだけ早期に退院が出来るように支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期の支援の在り方について説明をしている。重度化してきた時には、医療職、家族(状況によっては本人)、スタッフでの話し合いを持ち、書面での確認も行っている。また、希望が変わった場合には、いつでも言ってもらえるよう支援している。	終末期支援の経験を重ねており、系列事業所への転居も視野に入れ、利用者にとってのより良い環境作りに取り組んでいる。契約時や重度化移行の段階ごとに、繰り返し関係者間で支援について話し合っている。本人、家族の希望、揺れ動く心情に沿いながら最善の支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、ユニット会議などで、手順や対応の確認をしている。また、救急搬送時の役割や持ち物について取り決めを行った。さらに社内研修でも、急変時の対応等に関して学びを深めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した訓練を、消防の協力を得て行い、また、そのことを運営推進会議や回覧板で地域の方にも知らせることにより、協力体制を築けるよう努力している。さらに、地域の防災訓練にも参加することで、地域の特性を踏まえた防災情報を収集し、災害対策に役立っている。社内研修で、水害・地震の災害時にどうすれば良いか話す機会を持ち、避難方法を身に付けられるようにしている。	年2回隣接の系列事業所と合同で夜間想定避難訓練を行っている。新人職員を優先して役割を持たせ、振り返りを次回に活かしている。また、地域の防災訓練に職員が参加し、地域情報を得て協力関係を築いている。各種備蓄や備品等は法人全体で準備し、防災強化に取り組んでいる。	自然災害について、社内研修でシミュレーションを行い、さらに法人で水害時等の避難マニュアルの見直しを図っている。新マニュアルの策定後は全職員で内容を共有し、非常時に適切に対応できるように、実践的な訓練を期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修での学びを元に、日々のケアや申し送りの中でも、具体的にどのような声かけが適切であるのか、入居者本人が歩んできた環境も踏まえ、振り返り考え、取り組んでいる。	職員は人格尊重の姿勢を持ち、具体的なケア場面に応じた支援を学び、身に付けている。呼びかけは苗字にさん付け、入浴やトイレ誘導などは他者の前では言わないようにし、本人の尊厳を支え、傷つことがないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や希望を確認する作業を常に行い、ケアプランに組み込んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの要望があった場合には、環境の整備を図りながら、極力希望に沿った支援をしている。また、日々の暮らしの中でも本人の喜びや希望を知り、そこに沿った生活を送れるよう、取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んでもらったり、理美容室の利用など、本人の希望に沿った身だしなみ、おしゃれを支援している。ご家族からもなじみの服装などの情報を得るようにし、本人の習慣を継続できるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前より献立を提示し、食事への意欲や興味を高める場面作りから行っている。盛り付けの全体量や見た目、形状などを一人一人に合わせて工夫している。また、使用する食器もその人に適した物を用意し、味付けについてもその人の嗜好に合うように配慮をしている。	利用者と一緒の下拵えなどを行い、一汁三菜を基本に、菜園の野菜を使ったり、皆が好きな煮豆などを常備している。赤飯や好きな料理で誕生日を祝い、年中行事に合わせ餅つきや手作りお節などを楽しんでいる。個々の嗜好や状況により、自分で美味しく食べることができるよう様々な工夫を取り入れ支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、一人一人の状態や力、習慣に応じた支援をしている。必要に応じて、使用するカップやストローの使用などを工夫し、本人の力に応じた支援を行っている。ゼリーを常に用意し、嚥下状態により個別メニューを用意することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一緒に歯磨きをしたり(モデリング)、声掛けなどその人の力に応じた働きかけをしている。また、ご家族と相談し適切な用具を揃えたり、一人一人のレベルに合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らすため、本人の排泄の傾向を踏まえたうえでのトイレ誘導、個別の自立支援をしている。日常的には排泄チェック表を活用し、排泄時間を勤務者で把握することにより、排泄シグナルの読み取りに活かしている。	トイレでの自然な排泄を第一に、個々の排泄のパターンを知ることで、適切な間隔で誘導し失敗が軽減されている。リハビリパンツから布下着に変更できた人もおり、その時々気持ち良く過ごせるよう協議している。重度の人も、日中はできる限りトイレで排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳や乳製品などの摂取や飲食物の工夫をし、可能な限り離床し運動を働きかけている。また、食物繊維(ファイバー)を活用し、それでも改善しない場合は、医療連携をとり、薬剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り、一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう、声掛け・時間を工夫しながら柔軟に対応している。	週2～3回程度の入浴支援であり、同性介助なども希望に添って対応している。拒む場合は時間を置いて誘うなど、気持ちの変化を待って対応している。特に入居して間もない時期は、信頼関係の構築を大切に、足浴やシャワー浴などから段階を踏んで、湯舟での入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、休息をとれるよう働きかけている。また、安心して就寝を迎えられるように夕方、落ち着けられるよう環境の調整を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師および管理者が中心となり、介護職と連携しながら服薬の支援と症状の変化を観察し、適宜医師と連携を取り、調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を踏まえた上での役割活動が行えるよう、また、嗜好品や楽しみごとを行える支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いや希望を聞きながら、家族にも協力を求め、本人の意向に合わせた支援をしている。(散歩、町内行事、家族との外出、買い物など)	日常的に近くの公園に散歩に出たり、庭先のベンチで外気浴や野菜の成長や花壇の花々を楽しんだりしている。家族と共に自宅帰宅や、外食等に出掛ける利用者もあり、本人の希望の外出を支援している。コロナ禍により、地域行事等の参加を自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの預り金とは別に、自己管理が出来る人については、個々でお金を所持し、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話連絡をすることを支援したり、スタッフが仲介しながら電話で会話したり、手紙をやり取りできるように支援している。又、LINEも活用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に合った光の調整、季節に合った温度や湿度の調整を実施している。換気についても注意し、意識的に行っている。また、時期に合わせた花やタペストリーをかつようしたり、飾りつけをする事で雰囲気作りに努め、生活感や季節感を取り入れられるようにしている。	リビングは、清掃や整理整頓の行き届いた落ち着いた感じのある環境である。窓からは柔らかい陽光の取り入れと、花壇の花々を眺められ、季節を感じさせる装飾や生花を飾って、心とむす気作りをしている。温・湿度や換気等に注意し、テーブル等の配置を工夫して、感染症対策の徹底を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎの席や食事席を決めることで、なじみの居場所を確保している。また、適宜、利用者同士の関係性に配慮し安心できる居場所づくりに努めている。必要に応じて、共用空間の模様替えも行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人や家族と相談し、なじみの物を出来るだけ持ってきてもらえるよう支援している。家庭訪問を行った際に、ご家族と相談を行っている。	クローゼットが備えられた居室は、清潔感があり、自宅からタンスや机、仏壇等が持ち込まれ、家族写真や人形などが置かれてある。状態に変化が見られた時は、家族と相談して家具等の配置変更や物品の整理を行い、安心安全に過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かりやすいように暖簾や表札、張り紙をするなどの工夫をしている。また、本人が紐を引っ張ることで点灯・消灯が出来るようにしている。その人の必要に応じて、センサーを設置している。		